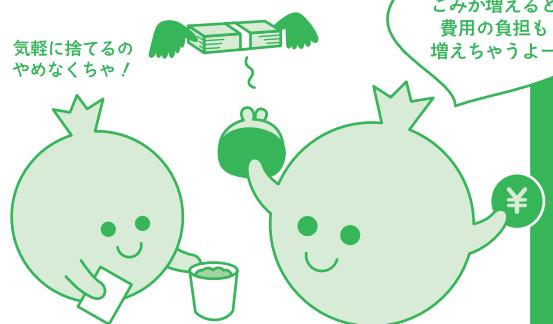


ごみゅにけーしょん

Communication みんなに話したくなる みんなと始める 事業ごみ減量ニュースレター

知っていますか？業者収集ごみの処分にかかる“お金”的こと

事業所から出るごみの多くは、一般廃棄物収集運搬業許可業者（以下「許可業者」という。）によりクリーンセンターに搬入され、焼却された後、最終処分地で埋め立てられています。この焼却と埋立てに、どれくらい経費が必要だと思いますか？



押さえておきたい
ごみ知識

業者収集ごみの処分にかかる経費を徹底解剖！

京都市では、業者収集ごみの処分にどのくらいのお金が必要なの？

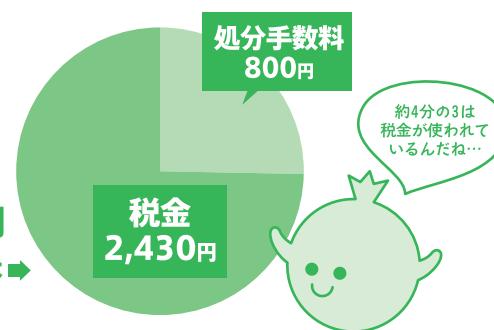


許可業者が収集し、クリーンセンターに搬入している京都市内の業者収集ごみは、年間約20万トン。これを処分するのに、約70億円がかかっています。

※ごみの焼却や焼却残灰の埋立て費用には、施設建設費（建設費総額を耐用年数で割り戻したもの）や運営に係る人件費、修繕費などが含まれています。

処分に必要なお金は誰が支払っているの？

業者収集ごみ100キログラムを処分するのに必要な経費は
3,230円
その財源の内訳は➡



100キログラムのごみを処分するためには、3,230円ほどかかります。このうち、許可業者がクリーンセンターに搬入する際に支払う料金は800円で、全体の4分の1に当たります。残りの4分の3は税金で賄われていることとなります。

税金の節約のため、
ごみ減量に
ご協力をよろしく
お願いします！

京都環境事業協同組合から
事業ごみ収集のご相談は当組合まで。
「京都市推奨事業系ごみ袋（透明袋）」も販売しています！ ★お客様相談窓口を開設しましたので、ぜひご利用ください！

相談窓口 Tel. 691-5517

[受付時間 月～金13:00～17:00]



ごみ削減に役立つ豆知識 ごみゅにけーしょん

Q 物を資源として再び利用することをリサイクルといいます。
それでは、物を繰り返し使うことを何というでしょう？

- ① リデュース
- ② リペア
- ③ リユース

Q&A



聞いたことあるんじゃないかな？



れぽーと

せん定枝や刈草の資源化に向けたワークショップを開催！

せん定枝や刈草は、ごみではなく、資源だよ



ワークショップの目的は？

京都市のクリーセンターで焼却されるごみのうち、市民や事業者により直接持ち込まれるごみが年間約4万トンあります。そのうち約1万トンは、せん定枝や刈草など、堆肥や製紙原料としてリサイクルできるものです。ワークショップでは、多くの持ち込まれる造園業者やリサイクルを担う民間資源化施設の方に参画いただき、せん定枝や刈草の資源化に向けた課題や解決策などについて話し合いました。

どんなことが課題なの？

平成24年10月に開催した第1回ワークショップでは、資源化に向けた課題を中心に話し合いました。そこでは、街路樹のせん定や河川敷の草刈りの際に、土や砂、ビニール、たばこの吸殻等のごみが混ざってしまうこと、それらを取り除くために大変手間がかかることなどの積み込み時の課題や、持ち込める枝の長さ・太さや品目（根はダメ）などの資源化施設ごとの受入基準が分かりにくいといった意見が出されました。



どんなことが決まったの？

平成25年1月に開催した第2回ワークショップでは、第1回で出された課題に対して、作業現場でごみが混ざらないようにする工夫や、資源化施設に持ち込みやすくする方法など、解決策について意見を出し合いました。その結果、せん定等の作業現場でできる工夫や資源化施設の受入基準、価格などを分かりやすくまとめたパンフレットを作成し、造園業の方々を中心に広く周知することになりました。

ごみ減量のヒントはあちこちに！

ワークショップ参加者からは、「せん定現場の理解が深まった」（資源化施設の方）、「造園業者間でも考え方には差異があった」（造園業者の方）などの感想をいただきました。異なる立場の方々による意見交換は、課題の洗い出しとその解決策の気づきにつながりました。皆さんも、ごみをテーマに、立場の異なるお知り合いの方と話をされて、課題解決のヒントを見つけてみませんか。

編集部より

ご意見をお待ちしています！

“へらす” “わける”
で一歩先行く
事業所にしよう！

事業ごみ減量ニュースレター「ごみゅにけーしょん」
もおかげさまで、10号となりました。これまでの内容は、
ホームページでもご確認いただけます。皆さん、
ぜひご覧ください！

<http://www.city.kyoto.lg.jp/menu1/category/1-6-4-2-0-0-0-0-0.html>

ごみゅにけーしょんQ&Aの答え：③リユース

長く使える物を選び、大切に使いましょう！



発行：京都市環境政策局事業系廃棄物対策室

京都市中京区河原町通二条下る一之船入町384番地 ヤサカ河原町ビル7階

TEL: 075-366-1394 FAX: 075-221-6550



とぴっくす

「廃棄物の適正処理ガイドブック」 を発行しました！

事業者のみなさまへ



概要版



平成25年3月
京都市



京都市 事業系廃棄物

検索

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000000035.html>

コラム

京の矢口恵

京都の伝統文化に育まれた知恵を、次代を担う文化人がコラムで紹介！

八木 隆裕（開化堂6代目）

茶筒は愛でるための伝統工芸品ではなく、使い捨てを前提にした実用品でもありません。“普段使いの道具でありながら、使い込むうちに深く愛着の湧く存在になっていただきたい”。そういう思いもあり、説明書には“よくなでてください”と記しています。



ある時、工房に「ちょっとここを直してもらえないか」と、年配の女性が茶筒を持って訪ねて来られました。茶筒を見ると弊堂の昔のもので、祖母の代から大切に使ってきた茶筒だとおっしゃられました。先代が作られた古い茶筒を見ると、本当に嬉しく有り難い気持ちになります。このように、修理を依頼されることも多く、私たちは刻印を見てどの時代に作られた茶筒かを判断し、適切な補修を行います。大切に使えば数十年にわたって使い続けられるものなので、代をまたいで受け継がれるケースも少なくありません。私が作ったものが例えれば、次の次の代に持ち込まれることもあることを考えると、改めて、今、自分がしている仕事を丁寧にしていかなくてはならないと思います。

ペットボトルのお茶が普及した現在、昔に比べると家庭でお茶をたしなむ時間は減ってしまいました。それと同時に、使い捨て製品が増え、大量のごみとなっているのが現状です。自分の代のことだけではなく、これまでのことを先につなげていける職人で在りたいと思います。そして、将来世代に負担をかけない“ものづくり”と“なぜこの商品が生まれてきたのか”というバックグラウンドを広く発信していくことで、京の知恵をさらに深化させていきたいと考えています。

八木 隆裕（やぎ たかひろ）プロフィール：1974年生まれ。京都市出身。大学卒業後一旦就職し、その後、家業の『開化堂』へ。父である5代目・八木聖二のもとで茶筒作りを学び、6代目を継ぐ。
Web: <http://www.kaihado.jp>

右記ホームページに一般廃棄物収集運搬業許可業者の連絡先・PR内容を掲載しています。ぜひご覧ください。

京都市 一般廃棄物許可業者

検索

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/000001025.html>